

～知財情報の世界で・・・～

HIT サービス研究所 代表
(一社) 知財活用戦略研究所(ISIPU)
元特許検索競技大会 実行委員会 副委員長
都築 泉

アジア特許情報研究会設立 10 周年、誠におめでとうございます。

以前、私も数年間、貴研究会に所属させていただき、一緒に活動させていただきました。諸般の事情でその後退会しましたが、今回、寄稿文のお声がけをいただき、大変嬉しく思っています。会の活動開始から既に 10 年経過され、大変充実したアクティブな活動を続けてこられたということで、そのエネルギーにはただただ敬服するのみです。本当に素晴らしいと感動しております。

せっかく寄稿文を書く機会をいただきましたので、ここで、知財情報活動と自分との関りを振り返りながら、つらつら思うところをまとめてみたいと思います。

1. 知財情報との関りと思い出

私が情報の世界に関わったもとのきっかけは、社会に出てはじめて勤務した丸善株式会社において、Dialog (現: Proquest Dialog) のサービスに関わったことに始まります。当時は、海外の科学分野のデータベースのセミナーの講師やヘルプデスク、関連資料の作成、依頼調査などを担当しておりました。最初は、化学分野がサービスの中心でした。そのころ、Dialog で提供されていた米国特許のデータベース CLAIMS (現: IFI Claims) を有効活用していただく、ということで、勤務先の丸善の主導で、IFI ユーザー会という研究会が組織されました。その活動を通じて、特許情報に興味を持つようになり、結局、特許事務所に転職しました。特許事務所では、弁理士の先生のお手伝いや特許調査等を行い、このころ得た特許実務に関する知識・経験は、大いに有用なものでした。その後、再び特許情報業界へと舞い戻り、(株) KMK デジテックスから (株) ジー・サーチへと仕事の場は移り、さらに 2005 年から約 8 年、大阪工業大学の知的財産研究科で勤務し、学生に特許情報を中心にした知財情報を教えました。

結果的に何回か転職したことになりますが、その間得た知識・経験はもちろんのこと、何といても多くの方々と知り合いになれたことが私の替え難い財産となっています。

また、大学を退職後、2015 (H27) 年度の特許情報普及活動功労者表彰で長官賞を受賞させていただいたことは大変大きな喜びでした¹⁾。これは、企業勤務のころ、ISForum (インフォスペシャリスト交流会)、その特許分科会、各種セミナーの講師等、また大学勤務のころは政府関係や知財関連団体の活動に参画させていただいたこと、さらに、特許検索競技大

会²⁾の実行委員会に、発足当時より足掛け8年間参画させていただいたことが受賞を賜った理由だろうと思っています。

特許検索競技大会に関しては、任期の最後のころに、それまでの特許情報プロフェッショナル向けのアドバンストコースに加えて、学生向けの「ベーシックコース（現：スチューデントコース）」が創設されました。これは、学生でも関われる特許を中心とした知財情報についての適当な研鑽の機会・資格となるもので、とても意義深いものでした。もっとも、勤務先の学生に関しては、自分のゼミ学生以外は、あまり多くの学生は受験しなかったのが少し心残りではありましたが・・・。

なお、大学勤務時代は、他に、INFOSTA（情報科学技術協会）の検索技術者検定（旧：情報検索基礎能力・応用能力試験）も受験するよう、学生に勧めました。こちらのほうは、学部学生の授業科目と直接関連づけることができたこともあり、基礎能力試験（現：検索技術者検定3級）では相当数の学生が受験し合格できました。さらに、院生のみならず学部学生からも応用2級（現：検索技術者検定2級）の合格者がでるなど、検定試験の意義を実感しました。

2. 研究会のご紹介（主として関西中心）

私が長らく知財情報に関わってくることができたのは、各種の研究会に所属させていただき、多くの知識を得、また有能な方々と知り合いになれたことが大変役立ったと思います。ここで所属している研究会のうち、主として関西で活動している会を紹介させていただきます。もし関心をもっていただければ是非活動に参画いただきたいと思います。

1) IPI-Forum(知財情報フォーラム)

この会は、IS Forum 特許分科会から発展的に発足したものです³⁾。

「IS Forum 特許分科会」は INFOSTA の資格試験の合格者の有志により組織された勉強会であるインフォ・スペシャリスト交流会（IS Forum）の下部機関です。したがって、「IS Forum 特許分科会」への入会資格は IS Forum の会員であることが必要で、そのためには、まずは INFOSTA の検索技術者試験に合格することが必要になります。この入会資格も一因だったと思いますが、2013～2014 年頃には、メンバー数の減少やメンバー構成の関係から、現実の活動継続が難しくなっていました。

そこで、入会資格の制約がなく、特許あるいは知財情報に関心があれば誰でも入会できる勉強会ということで、この IPI-Forum(知財情報フォーラム)を2014年秋に立ち上げました。結果的に、特許出願業務を中心に仕事をしておられる方や既に長らく情報業界に関係し今更資格試験には興味が無い方なども入会いただき、また、「IS Forum 特許分科会」で実質的に活動しているメンバーは全員この知財情報フォーラム(IPI-Forum)にも入会しました。その後、新たなメンバーも徐々に増え、現在も活動を継続しています。

知財情報フォーラム(IPI-Forum)」としては、2018年の11月の研究会が第14回目の研究

会となります。IS Forum 特許分科会としての活動期間も含めると、1997 年 12 月以降、既に 20 年間以上活動を継続しています。

活動の基本方針は、特許を中心とした知財情報に関心のある方々の有志による勉強会（情報交換会）であり、情報の Give&Take の精神で、入会金・参加費等は基本的に無料、年に 4 回の開催です。メンバー 30 名以上、実質的に活動しているのは 20 名程度、毎回の研究会への出席者数は、ほぼ 15 名前後です。参加費無料、会場は大阪工大、代表&事務局は都築で運営しています。概ね、メンバー相互の小ネタを持ち寄って発表しあう、という方式で、時々、外部の講師をボランティアでお願いしています。2018 年 7 月の研究会では JAPIO の方に、同年 11 月の研究会では INPIT の方にも講演をお願いいたしました。大阪工大の先生方にも何回かご講演いただいています。

また、年に 1 回、通常のメンバー以外にも広く活動を知っていただくため、メンバー以外の方にもお声掛けをして参加を募る「拡大研究会」を開催しています。連絡と情報共有にはメーリングリストおよび、大阪工大知財の SNS を利用、知財情報に関心があり、情報の Give&Take に前向きの方であればどなたでも参加いただけます。INFOSTA（情報科学技術協会）様には、研究会の都度、いつも後援をいただき、雑誌「情報の科学と技術」に開催案内を掲載、メルマガでも広報していただいております、大変感謝しています。

2) パテント・サーチャー研究会（関西）

アイ・ピー・ファイン社で開催されている研究会で、運営は株式会社サピエンティストが担当、都築は座談会の座長をやらせていただいています。宿題もなく、気楽に参加できる勉強会であると同時に、業務の困りごとについての自由意見交換会のような内容です。アイ・ピー・ファイン社のサービス紹介やミニ講義+座談会での情報交換、という形が多いです。開催は年に 3~4 回程度、大阪の谷町九丁目近くの同社が会場なので、参加も便利です。同社のユーザーでなくても参加できます。

3) 情報技術研究会

年会費 24,000 円、研究会は隔月で午後半日の開催、事務局は(株)ジーサーチ、開催場所は事務局さんの御世話により富士通関西ラボラトリを利用させてもらっています。

現在は、法人会員が約 5~6 社、個人会員が 5 名程度、合計、10 人ぐらいで隔月の研究会を行っています。会長は法人会員の中から、会長以外の役員はメンバー全員の持ち回りで担当します。この会は、元々は上記の 1. で記載した IFI ユーザー会ですが、事務局の組織変更等により何回か名称も変更されましたが、しかし活動はずっと引き継がれてきたものです。もともとは法人会員のために 35 年ぐらい前に発足し、一時は関西の 15 社程度がメンバーでしたが、その後、法人会員が減ったため、元々の法人会員からの参加登録メンバーであった人は、部署移動や退職後も個人会員として継続参加可能になりました。（最初から「個人会員」として参加することはできませんので、まずは法人会員として参加する

必要があります)。

4)3i 研究会⁴⁾

情報分析の活用を研究する会で、情報科学技術協会 (INFOSTA) が主催しています。参加費は INFOSTA の会員であれば各期 10,000 円、会員でなければ、少し高くなりますので、結局は INFOSTA の会員になったようがお得です。詳細は INFOSTA のサイトをご覧ください⁴⁾。

研究会は東京と大阪で開催され、2018 年秋の時点では、東京では 3 グループ、大阪は 2 グループで活動しています。

5)その他の研究会

上記以外でメンバーとして、たまに参加させていただいているのは、上記でも出てきましたインフォ・スペシャリスト交流会 (IS Forum) (“サーチャーの会”の関西版) と東京で関西されている OUG 特許分科会です。これらは、会費を支払えばメンバーとして継続できますので、メンバーとして加えていただいておりますが、面白そうな講演のときだけ参加させていただいている、という受け身の関係です。

3. その他雑感、特に学会活動

特許情報の流れが AI 技術の広がりや情報の多様化に伴い、以前にも増して大きく変わっている現状の中で、自分は今後何をやっていきたいか考えてみました。

一つには、上記に挙げた研究会活動です。特に、現在、代表・事務局として関わっている知財情報フォーラム (IPI-Forum) をさらに充実・発展させ、良い状態で次世代に引き継ぎたいと考えています。情報交換の場として、また、最新情報を入手できる場として、研究会や情報交換会は重要であり、そのおかげで私も仕事を続けてこられたと思っていますので。

また、もう一つは学会活動、特に海外での学会です⁵⁾。

具体的には、米国で例年 5 月に開催されている PIUG (Patent Information Users Group)⁶⁾、3 月に欧州で開催されている IPI-ConfEx⁷⁾、8 月末～9 月中旬に中国の北京で開催されている CPAC (Chaina Patent Annual Conference ; 旧名 PIAC)⁸⁾ です。PIUG と IPI-ConfEx では今まで何回かプレゼン発表をさせていただき、また、CPAC では、PIUG がおこなう CPAC での半日のセッションの中で、今年はじめて発表させていただきました⁹⁾。これらの学会・イベントには今後もできるだけ参加し、可能であれば継続的に発表も行っていきたいと考えています。もっとも IPI-ConfEx は、参加者数減少のため、2018 年の開催は見送られたので、今後の開催はどうなるのか判りませんが・・・。

他に、私は参加したことがありませんが、CEPIUG (Confederacy of European Patent Information User Groups)¹⁰⁾、や East meets West (EPO 主催)¹¹⁾ などもあり、そのうち機会があれば参加してみたい、と思っています。

自分が参加した範囲でいいですと、日本からの参加者は少ないのが残念です。もっと多くの方々に参加・活動いただけたらと思っています。

4. 最後に

以上、雑然と書いてきてしまいましたが、アジア特許情報研究会様の活動は“高い質の研究をされている”というだけでなく、“人とのつながりを作れる場”としても貴重と思います。今後のさらなるご発展を祈念します。また、活動メンバーとしてもそのうち復帰させていただきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上

参考文献：

1. 平成 27 年度 特許情報普及活動功労者表彰
<http://japio.or.jp/hyousyou/files/2015/15-a-01.pdf>
http://japio.or.jp/hyousyou/introduction_h27.html
2. 特許検索競技大会 <https://www.ipcc.or.jp/contest/>
3. 都築 泉, 「特許情報分野の研鑽の場の在り方」, JAPIO YEAR BOOK 2014, p124～131, http://www.japio.or.jp/00yearbook/files/2014book/14_1_13.pdf
4. 3i 研究会 <https://www.infosta.or.jp/3i/>
5. 都築 泉「海外の特許情報学会の状況、および情報検索担当者への提言」, 知財管理 Vol.66 No.12 P1624-1639 (2016)
6. PIUG <https://www.piug.org/>
7. IPI-ConfEx <http://www.ipi-confex.com/>
8. CPAC <http://www.piac-china.com/>
9. Izumi Tsuzuki, Exploring Business Fields using the "Stepwise Conception Method" and the "Needs Design Method"
<https://www.piug.org/cpac18meeting/>
<https://www.piug.org/cpac18program#tsuzuki>
<http://www.piac-china.com/eng/schedule/>
10. CEPIUG <http://www.cepiug.org/>
11. East meets West
<https://www.epo.org/learning-events/events/conferences/2018/emw2018.html>